



幕末・安政期、大地震やコレラの蔓延が起きました。また外国船出現で鎖国を解くということもありました。今よりも科学が発達してなかった時代、人々の不安や疑心暗鬼は相当のものだったでしょう。現在、新型ウィルス流行に加えて水害や地震。人も社会も互いに支え合おうとする姿と共に不寛容になる様子も見えます。後世の人々は、今の私たちをどのように見るでしょうか。

## どんな音が聞こえますか？

歴史的出来事やその史料について学んでいる時、どうしても“物”(建築物、古文書、遺物 など)だけに意識が集中してしまいます。けれども人々が暮らしていた証<sup>あかし</sup>の中には“音”もあるはずです。そこで今回はそこに焦点を当てて考えてみることにしました。

右の写真は昭和20年代後半～30年代初めに撮られたと思われます。蒲生駅南側踏切辺りです。線路の先は春日部方面です。盛夏の昼頃と思われる。この写真からどんな音が想像されるでしょう。現在の様子からは聞こえない音が聞こえてくるかもしれません。



蒲生茜町～七左町

蒲生駅舎

現在



今よりも電車の本数や通る自動車も少なかったことや、人の姿が見えないことから、稲穂を渡る風の音や駅舎の傍らに立つイチョウで鳴いている蝉(アブラゼミ?それともミンミンゼミ?)の声は聞こえませんか?もしかしたら草加方面から近づく電車の、レールの響

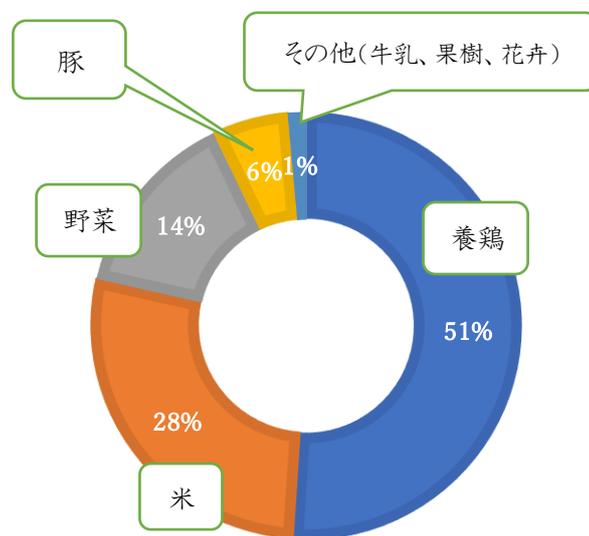
きが少し聞こえていたかもしれません。右端には用水路のような所に葎が生えています。そこにはヨシキリの声があったかもしれません。

越谷では高度経済成長の一時期、養鶏が盛んでした。人口が急激に伸びつつあった東京に近いこともあり、農業では米よりも生鮮食品の生産が多かったようです。(右のグラフをご参照ください。)昭和30年代の旧日光道中の写真には、「鶏卵」と書かれた看板を掲げる店も写っています。店に並べられた卵は木の箱にもみ殻を布いた所に入れられていました。あるいは稲わらに包まれて売られていました。これは手に提げられるので、自宅用にとって帰る時や病気見舞いにも利用されました。

次の写真は農家の鶏舎のようです。これは昭和30年代～40年代でしょうか。下駄をはいた小さい女の子がつか立ちして卵をとろうとしているようです。お母さんに朝の食卓に用意するように言われたので

### 種別農業販売高割合

(越谷市勢要覧1965年)





しょうか。鶏の鳴き声が「コッ、コッ、コッ、コッ」と聞こえるようです。女の子の服装から季節は寒い時ですね。小さい子供も家族の中でそれなりの役割を果たしました。母屋の方からは「卵、あったかあ？」という声が聞こえてきそうです。



下は寄贈される前の旧東方村中村家住宅の写真です。屋敷林は特に北西側には高い樹木があります。住宅の南



側に水田が広がっています。田植えが済んだ時期です。風の音や鳥のさえずりも聞こえそうです。夕方にはカラスの声や、暗くなれば蛙の声も聞こえたでしょう。この写真は晩春～初夏ですが、他の季節についても想像してみると、また違った音が聞こえてきそうです。例えば晩夏の夕方近くはどうでしょう。稲穂を渡る風の音。ヒグラシゼミの声。そして日が落ちる頃からは虫の声。茶の間からは夕飯の音や家族の声。テレビがなかった頃はラジオから流れる音などが聞こえてきたでしょう。



かつての住宅、農民の家、町家、武士の住居にはそれぞれの特徴がありますが、共通点もあります。その一つは“土間”という土床の部屋の存在です。土間は住人や近所の人たちの出入口でもあり、お勝手（台所）でもあり、作業場でもあります。床は粘土とニガリ、石灰を混ぜたものを専用の道具で叩いて造りますので、三和土とも言われます。相撲の土俵もこのようにして造るそうです。

この土間には「竈」が設えてあります。「くど」とか「へっつい」という言い方もあります。粘土やレンガ、石などを用いて造られます。燃料は主として薪ですが、焚き付けには小枝、枯れ葉、藁、紙などが使われました。土間ではどのような音がしていたでしょうか。農家を想定して想像してみましょう。

- \* 早朝・・・外では雀の鳴き声に交じって時を告げる雄鶏の声。木の雨戸を開ける音。菜を刻む音。竈では枝などがパチパチ、ピチッとほぜえています。小竹などが入っていると、「ポン！」と音がします。そのうちに釜のご飯がふける音がしてきます。親が子供を起こす声も聞こえるかもしれません。
- \* 夕方～夜・・・竈にかけられた鍋はぐつぐつ音をたてています。（鍋は囲炉裏の自在鉤にかけられることも多かったです。）夕飯が終わって一段落すると、障子戸の向こうから機織りの音が聞こえた時代もあったでしょう。土間では藁打ちの音や農具を手入れする音がしていたかもしれません。

雨の音も降り方や屋根の材質によって異なります。傘によっても違いますね。布製、ビニール製、和傘のそれぞれに当たる雨粒の音です。学校では先生が黒板にチョークで書く音が次第に聞かれなくなるかもしれません。静かな教室に響く心地よい音。眠くなった人もいたでしょうか・・・